「去勢抵抗性前立腺癌に対する Ra-223 の有用性についての検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2001 年 1 月 1 日より 2026 年 6 月 30 日の期間に埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科を受診し、骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌と診断され、診療を行なわれた患者さんを対象としております。

２．研究の目的

現在日本で転移のある去勢抵抗性前立腺癌に対して使用可能な薬剤は、エンザルタミド、アビラテロン、ドセタキセル、カバジタキセルですが、それ以外に骨転移のある方に対しては Ra-223(ゾーフィゴ®)というα線という放射線を出す薬剤を用いた治療も行われています。Ra-223 については、骨転移のある方のうち、どのような方が Ra-223 の治療対象として最適なのか詳細には分かっておりません。当院の患者さんの過去の治療内容を参照し、Ra-223 がどのような骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌の方に最適なのかを明らかにすることを目的としています。

３．研究期間

病院長の許可後～2028 年 12 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2026 年 10 月 1 日
開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

通常診療で得られた診療記録、検査データ、画像検査データ、病理診断情報、治療内容および転帰情報を使用します。具体的には、年齢、身長、体重、ECOG performance status、既往歴、前立腺癌の診断日、病理組織型、Gleason score、primary Gleason pattern 5 の有無、PSA 値、血算・生化学検査値（ヘモグロビン、ALP 等)、転移部位、骨シンチグラフィにおける骨転移の広がり（extent

of disease：EOD)、骨痛の有無、ホルモン感受性前立腺癌に対する治療内容、アンドロゲン除去療法の開始日、去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）の診断日、CRPC 移行までの期間、CRPC 診断後の治療内容および治療ライン、Ra-223（ゾーフィゴ®）投与の有無、Ra-223 の開始日、投与回数、治療中の骨修飾薬使用、Ra-223 開始前後の治療内容、死亡日または最終生存確認日などです。
この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究実施者である永本将一が個人を特定できないように加工した上で管理します。研究では通常診療ですでに得られている情報のみを使用し、研究目的で新たな採血、画像検査、生検、治療介入または来院をお願いすることはありません。また、本研究で得られた情報は、将来の研究で二次利用する可能性があります

２．試料・情報の取得方法

患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者	泌尿器科	医師	教授	矢野晶大
研究実施者	泌尿器科	医師	准教授	岡田洋平
	泌尿器科	医師	講師	北山沙知
	泌尿器科	医師	助教	永本将一
	泌尿器科	医師	助教	新井昌弘
	泌尿器科	医師	助教	平田渉
	泌尿器科	医師	助教	川端惇也
	泌尿器科	医師	助教	石田綾乃
	泌尿器科	医師	客員教授	川上　理
	泌尿器科	医師	非常勤講師	林田迪剛

４．試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター　病院長　別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。
利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。
ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター　泌尿器科　矢野 晶大
住所：〒350-8550　埼玉県川越市鴨田 1981
電話：049-228-3673（土日祝日を除く 9：00～17：00）

○研究課題名：去勢抵抗性前立腺癌に対する Ra-223 の有用性についての検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター　泌尿器科　矢野 晶大